ANNUAL REVIEW

2024年度 年次報告書

2024年1月1日～12月31日

一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京

CONTENTS

代表のメッセージ 2

About BirdLife International 3

環境保全活動

環境保全と貧困削減 5

種の保全（SPECIES） 6

生態系の保全（SITES） 7

調査・研究（SYSTEMS） 8

地域コミュニティ支援（SOCIETY） 10

広がる支援の輪（FUNDRAISING） 11

みなさまからのご支援 13

収支報告 14

代表のメッセージ

バードライフ・インターナショナル東京（以下、バードライフ東京）は、2002年の設立以来、種や生態系、森林、海洋の保全に加え、地域の人々の暮らしの向上や環境教育を通じて、世界中で多岐にわたる活動を展開してきました。

2024年のバードライフ東京の活動は、アジア、アフリカ、南アメリカを含む世界15カ国に広がりました。特にインドネシアでは、初めて日本NGO連携無償資金協力（ODA）の支援をいただきアグロフォレストリーの導入と生計向上に努めています。また、国内では宮城県東松島市において東日本大震災の影響を受けた湿地の整備が進み多くの渡り鳥の飛来が観察されました。

これからも世界123カ国/地域に広がるパートナー団体と協力し、「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて引き続き尽力してまいります。

2025年1月
バードライフ・インターナショナル東京
代表理事

2024年の活動ハイライト

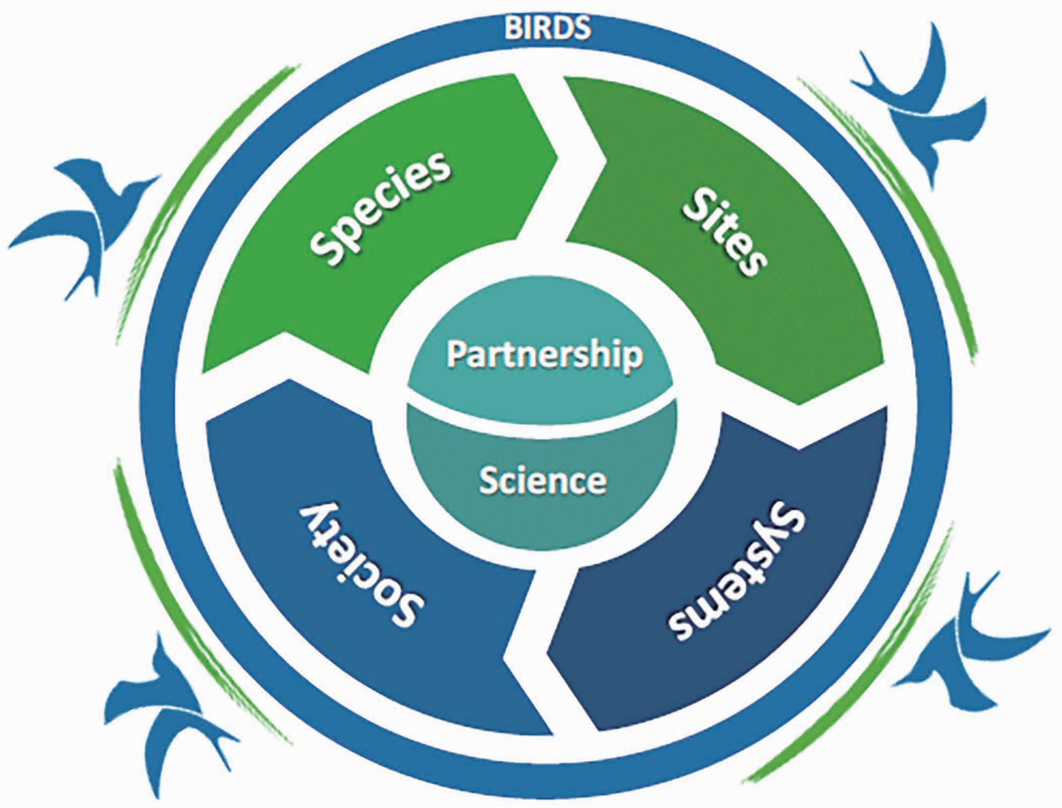
バードライフ東京では、環境保全活動の推進を軸に企業やバードライフ・インターナショナルのパートナー団体との協働を進めることで、2024年は15カ国において環境保全活動を展開することができました。

About BirdLife International

Our Vision

世界123の国・地域のパートナーとともに自然と人がより等しく持続可能な方法で共生できる世界を目指します。

バードライフ・インターナショナルは、人々がそれぞれの地域で自然のために働き、他の地域とつながることが、この地球上のすべての生命を維持する鍵であるという信念を共有しています。私たちは、独自のローカルからグローバルへのアプローチと世界トップクラスの科学を用いて、自然と人々の利益のために、効果的且つ長期的な保全を実現します。



Our Approach

私たちは「種」「生態系」「調査・研究「地域コミュニティ」を軸に、鳥類、生息地、自然、そして人間を結びつけて科学的根拠に基づいて鳥類と生態系の保全活動を展開しています。

- 種(Species):生態系の頂点に位置する鳥類を生物多様性の指標として重視します。
- 生態系(Sites):鳥類が生息し、移動する生態系の保全を通じて種を保護します。
- 調査・研究(Systems):自然環境に影響を与える人間活動を自然と人間双方の利益に繋がる形へと改善します。
- 地域コミュニティ(Society):より良い環境と社会政策を実現するために、さまざまなステークホルダーとの対話と協働を推進します。

Numerical Overview

数字で見るバードライフ

世界の鳥類の約半数が減少しています

2024年の主な成果

バードライフのパートナーとして、モンゴルのWildlife Science and Conservation Center of Mongoliaが加わり、パートナーの総数は**123**となりました。

バードライフの海鳥トラッキングデータベースが**20**周年を迎えました。

IUCNレッドリスト更新世界全体の鳥類の**42**%にあたる**4,742**種が再評価されました。

熱帯アンデスとコンゴ盆地で**722**カ所のKBA(生物多様性重要地域)が新しく特定されました。

バードライフ東京 概要

名　称	一般社団法人バードライフ．インターナショナル東京
代表理事	鈴江恵子
理　事	戸田成郎、村井満、宮崎智子
設　立	2002年4月　バードライフ・インターナショナルのアジア地域事務所を東京に開設（任意団体として活動開始）

カカオ栽培トレーニング ©Burung Indonesia

環境保全と貧困削減

**環境に配慮したカカオ豆のバリューチェーン構築を通じた
農家の生計向上と自立支援に取組んでいます**

持続可能な農業と生計向上支援－インドネシア

インドネシアのゴロンタロ州は、同国の最貧困州の一つです。主要産業のトウモロコシを栽培するために多くの森林が破壊され、生態系に深刻な影響を与えています。バードライフ東京とパートナー団体のBurung Indonesiaは、日本NGO連携無償資金協力（ODA）の支援を受け、2024年3月からゴロンタロ州の11村で、環境保全型農法であるアグロフォレストリーの導入によるカカオ栽培を通じた農家の生計向上に取り組んでいます。2024年は11村に、カカオ栽培のための施設を建設するとともに、350農家に環境に配慮した栽培方法を指導しました。

種の保全

**絶滅の危機にある種と
その生息地を保全しています**

75年ぶりに再発見されたアオメヒメバト（Blue-eyed Ground Dove）

アオメヒメバトの保全
－ブラジル

2015年、絶滅したと考えられていたアオメヒメバトが、75年ぶりにブラジル南東部で再発見されました。アオメヒメバトは、ブラジルの固有種でセラードという特有の生態系に生息しています。バードライフ東京とパートナー団体のSAVE Brasilは、2024年より経団連自然保護基金の支援を受け、アオメヒメバトの生息地の保全と個体数の増加に取り組んでいます。2024年は、地域住民による生息地を含む州立公園のパトロールと整備、モニタリング活動を行いました。また、州立公園の管理計画の起案を行う評議会に参加しました。

セラードと呼ばれる熱帯サバンナ地帯でのモニタリング

ソングバードの保全
－インドネシア

インドネシアでは、ソングバードの鳴き声コンテストが巨大産業となっており、多くの野鳥が密猟され、絶滅の危機に瀕しています。バードライフ東京とパートナー団体のBurung Indonesiaは、2023年より経団連自然保護基金の支援を受け、ジャワ島にて野生のソングバードの保全に取り組んでいます。2024年は、ソングバード関係者の意識・行動変革に継続的に取り組むとともに、地域住民向けの森林モニタリングや環境保全型の新規事業開始に向けた研修などを実施しました。

ソングバードのブンチョウ（Gelatik Jawa）

SITES

生態系の保全

**野生生物の生態系を守るため、
生息地の保全・整備に取り組んでいます**

多くの野鳥が訪れるようになった宮城県東松島市の洲崎湿地

©東松島市

震災被災湿地の整備
－日本

宮城県東松島市の洲崎湿地は、2011年の東日本大震災による津波で甚大な被害を受け、その後の復興作業で湿地が埋め立てられました。しかし、残された小さな水辺に多くの野鳥が飛来するようになったことから、この地を「野鳥のサンクチュアリ」にすることを目指し、株式会社アルテジェネシスおよび株式会社ケイ・アンド・ジー商事のご支援のもと、東松島市と一般社団法人C.W.ニコル・アファンの森財団とともに、湿地の再生を進めています。2024年は、洲崎湿地の拡張工事を実施し、湿地の自然形状を再現するとともに、排水ドレーンパイプの設置による水質改善に取り組みました。

ICT技術を用いた森林保全活動の促進
－インドネシア

バードライフが管理するスマトラ島南部のハラパンの森は、違法伐採や持続可能でない利用により森林が減少しています。森林を違法活動から守るために2018年より富士通株式会社の支援を受け、同社のICT技術を用いた森林のパトロールやモニタリングを実施しています。2024年は、インターネット接続用の通信塔2基を建設し、森林モニタリングシステムの向上を図りました。また、破壊された森を回復するためのMPTS*植林に向けて地域住民との話し合いを行いました。

*MPTS (Multi Purposes Tree Species)：複数の生産物を得るために意図的に栽培・管理された樹木のこと。

SYSTEMS

調査・研究

**生物多様性の保全を支援するさまざまな評価ツールを提供し、
それらを通じて社会システムの変革を促しています**

IBAT活用による生物多様性の情報開示支援

IBAT（生物多様性評価ツール）は、指定地域周辺の保護区やKBA（生物多様性重要地域）などの保全地域、絶滅危惧種の分布を統合して地図上に表示するツールです。

バードライフ東京は、企業のIBAT利用を支援するために、国際航業株式会社と協働でオンラインセミナーやIBAT本部スタッフとの対面での意見交換会を開催しました。

バードライフが提供する生物多様性評価ツール

IBAT
Integrated Biodiversity Assessment Tool

生物種や重要生息地のデータを駆使し、生物多様性の影響評価を机上で実施するツール。生物多様性や重要生息地に関する具体的情報を提供します。TNFD*のLEAPアプローチ*の「L」において分析・評価が可能。2024年は、CDPの回答やGRIに準拠した情報開示を支援する「開示準備レポート」が公開された。

*TNFD (Taskforce for Nature-related Financial Disclosure): 自然資本や生物多様性リスクの評価・開示を促す国際的フレームワーク
* LEAPアプローチ：場所特定、影響評価、優先順位設定を行うTNFDの分析プロセス

AVISTEP
The Avian Sensitivity Tool for Energy Planning

再生可能エネルギー開発が鳥類に与える影響を評価するツール。

PRISM
Practical methods for evaluating the outcomes & Impacts of Small–Medium sized conservation projects

中小規模の環境保全プロジェクトのよりよい目標設定、ならびに成果&影響評価を、事前・事後で実施し、環境活動の好循環をつくるための手引き（キット）。

植林活動の経済価値評価
Economic Valuation of Afforestation Activities

植林によってもたらされる経済価値を1本からでも机上で試算評価できるツール。国内限定。

TESSA
Toolkit for Ecosystem Service Site-based Assessment

特定の場所の生態系サービスの経済価値を、既存のデータや聞き取り調査により評価するツール。

Image by vectorjuice on Freepik

©MWF

バードウォッチングではシギやチドリが確認されました

油流出が水鳥に及ぼす影響評価－モーリシャス

公益信託商船三井モーリシャス支援環境回復保全・国際協力基金による支援のもと、モーリシャスのパートナー団体のMauritian Wildlife Foundationと協働で、2020年に発生したWAKASHIO座礁事故による油流出がモーリシャスに生息する鳥類に及ぼす中・長期的な影響を評価し、現地でのモニタリングや保全の体制確立に取り組んでいます。2024年は、シギ・チドリ類や海鳥のモニタリング及び採餌状況の調査を実施しました。また、市民への普及啓発を図るために、バードウォッチングイベントを開催しました。

©Liz Holmes

ワタリアホウドリの親子

海鳥と漁業の共存を目指す取り組み－日本

漁業による混獲（偶発的に漁具にかかること）で絶滅危惧種を含む多くの海鳥が命を落としている問題の改善を目指し、2024年は以下3つの活動に取り組みました。1. アホウドリ類などにとってリスクの高いはえ縄漁の混獲削減に向けて、デビッド&ルシール・パッカード財団の支援のもと、国際的なマグロ漁業管理組織の会合への参加や、漁業者、行政、研究者らとの意見交換を行いました。2. 潜水性の海鳥が混獲されやすい刺し網漁については、東京動物園協会および同財団の支援を受け、北海道羽幌町周辺の漁業者や研究者らと協働で、現状把握のためのデータ収集を継続するとともに、普及啓発のリーフレットを作成しました。3. 日本動物園水族館協会の支援のもと、葛西臨海水族園において、東洋大学などの研究者と刺し網漁混獲回避策の検証実験を実施しました。

SOCIETY

地域コミュニティ支援

自然と人との共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています

持続可能な森林資源管理と生計向上支援－インドネシア

インドネシア・ゴロンタロ州では、農地拡大のための森林伐採などの課題があります。そこで、持続可能な森林資源管理や生計向上のための知識や技術の普及活動を、JICA（国際協力機構）草の根技術協力事業として実施しました。本プロジェクトを通じて6村12名の指導員と対象農家を育成し、有機肥料を活用した付加価値の高い作物栽培を実現する体制を構築しました。

詳しくはこちら：
https://tokyo.birdlife.org/kusanone

©宮島沼の会

宮島沼の自然観察をする倶知安町と宮島沼の小中生たち

次世代リーダーの育成－日本

2020年よりパシフィック・センチュリー・プレミアム・ディベロップメンツの支援を受け、宮島沼の会とともに北海道の渡り鳥の重要生息地の保全活動に取り組んでいます。2024年は、マガンへのストレスを軽減するために宮島沼南岸の遮光壁の修繕を行いました。また、次世代環境リーダーの育成を目指し、宮島沼（美唄市）の子どもたちで構成される自然戦隊マガレンジャーと他地域の子どもが互いの地で自然の大切さを学ぶ交流事業の支援を開始、7月と9月に倶知安町と宮島沼で交流&自然体験を実施しました。

FUNDRAISING

広がる支援の輪

バードライフの調査研究や世界中の環境保全活動を支援するために、チャリティーイベントを開催しています

©keyshots.com

東京ガラの様子

ガラ·ディナーの開催

　バードライフ東京では、環境保全活動を支えるため、毎年2回東京と大阪でガラ·ディナーを開催しています。2024年の東京ガラ·ディナーには約500名、大阪スプリング·ガラには400名以上の方々に参加いただき、多くのご協賛を賜りました。いただいたご支援はBirdLife International Japan Fund for Science基金の拡充、タヒチでの野鳥保護救済センターの建設やアルゼンチン、モーリシャス、アフリカ、ベトナムにおける絶滅危惧種含む鳥類の保全などに活用されています。

名誉総裁 高円宮妃久子殿下によるお言葉

資金集めのためのライブオークション

BirdLife International Japan Fund for Science基金

　2019年に高円宮妃久子殿下の名誉総裁ご就任15周年を記念し設立されたBirdlife International Japan Fund for Science基金は、バードライフが世界中で行う鳥類保護や自然環境保全の基礎となる調査研究活動を支援しています。

　2023年に初期目標を達成し、この基金を継続的に運用することで得られる収益を基に、本年より本部の研究チームへの支援を開始しました。この研究の成果は、バードライフだけではなく、さまざまな国際機関や各国政府に基礎データとして提供されるとともに、IUCN（国際自然保護連合）レッドリストとして発表され、生物多様性の保全に貢献しています。2024年は、鳥類の42%、4,742種の再評価が実現しました。

　基金には大阪と東京で開催したガラ·ディナーの収益金の50%とショパールジャパン株式会社を始め、個人や団体、企業からも多額のご寄付をいただきました。今後も、本基金を通じ、研究活動を継続的に支えていきます。

世界の絶滅危惧種を解説したRed Data Book

その他の助成先

野鳥保護救済センターの建設
－タヒチ

ハゲワシの保全
－アフリカ諸国

パタゴニアカイツブリの保全
－アルゼンチン

モーリシャスチョウゲンボウの保全
－モーリシャス

コサンケイの保全
－ベトナム

ゴロンタロ州におけるカカオ苗木の配布および苗木の植樹活動
－インドネシア

みなさまからのご支援

バードライフの理念や活動に共感する多くの方々から
ご支援をいただきました

株式会社アルテジェネシス
株式会社ケイ・アンド・ジー商事

海外を含め300店舗以上の美容室を展開する株式会社アルテジェネシス並びに関東を中心に130店舗以上の美容室を展開する株式会社ケイ・アンド・ジー商事より、店舗のヘアカラー施術の件数に応じたご寄付をいただきました。美容業界は、大量の水を使用し、染料などに含まれる化学物質が水質汚染の原因となり得ることから、バードライフ東京の環境保全活動を継続的にご支援いただいています。ご支援は、東日本大震災で浸水被害を受けた宮城県東松島市で湿地を復元・整備する活動に活用しています。

株式会社伊東屋

「鳥を守り自然を守りたい」という思いを込めて作られた伊東屋オリジナル ROMEO No.3ボールペンには絶滅が危惧された鳥が描かれ、高蒔絵という技法が施されています。ボールペンの売上の一部をバードライフの環境保全活動にご寄付いただきました。

株式会社フェリシモ

自社企画商品を中心に、ファッションや生活雑貨など幅広い商品を販売する株式会社フェリシモとのコラボレーション商品を販売しています。鳥たちがデザインされた商品の販売から1個につき100円を、野鳥基金としてバードライフの環境保全活動にご寄付いただきました。

BLS（バードライフ・サポーターズ・クラブ）

麻酔科医の有志の方々によって結成されたバードライフ・サポーターズ・クラブから、今年も会合でのオークションの開催などを通じ、寄付金を集めていただきました。

ソリマチグループ

1955年の創業以来60年以上にわたって日本の会計をあらゆる形で支援してきたソリマチグループより、社内の募金活動によるご寄付をいただきました。同グループは、果敢に挑戦するファーストペンギンを目指すべき姿に掲げており、今年で5年目となるご支援をいただきました。ご支援は、南アフリカのペンギンの保護活動に活用しています。

LGTウェルスマネジメント信託株式会社

リヒテンシュタイン公爵家が所有する国際的なプライベートバンキングおよびアセットマネジメントグループであるLGTの日本法人であるLGTウェルスマネジメント信託株式会社より、ご寄付をいただきました。同社は、サステナビリティを重視しており、バードライフの科学的な調査・研究活動を2022年よりご支援いただいています。

公益財団法人全日本弓道連盟

公益財団法人全日本弓道連盟は、弓道の矢に鳥の羽根が使われていることから、鳥類の保護に関心を寄せて下さっており、バードライフの科学的な調査・研究活動を2021年よりご支援いただいています。

Yahoo!ネット基金

Yahoo!ネット基金では、バードライフ東京の運営サポートの他に、ヘラシギ、ケープペンギン、ブラジルの野鳥、インドネシアの森を守る活動と、4つのプロジェクトページを開設し、ご支援をいただいています。

法人賛助会員・個人会員

バードライフ東京には、企業や団体による法人賛助会員制度や、個人で活動を支援していただく制度があります。その他にも、絶滅危惧種の保護活動に里親として関わっていただくレア・バード・クラブ会員制度があります（50音順・敬称略）。

法人賛助会員

2024年の法人賛助会員は、以下の通りです。

・株式会社アルテジェネシス
・アルファー食品株式会社
・株式会社ケイ・アンド・ジー商事
・株式会社日本触媒
・医療法人煌仁会森川内科クリニック
・出雲大社
・高麗若光の会
・寒川神社
・北海道神宮
・出雲大社文化事業団
・高麗神社
・伏見稲荷大社
・真清田神社

個人会員（Friends of BirdLife）

個人会員制度では5,000円を1口（1年間）として寄付を募っています。個人会員の方からのご支援はプロジェクト活動費や団体の運営のために活用させていただきます。振込の他、カード決済による会員の自動継続が可能です。

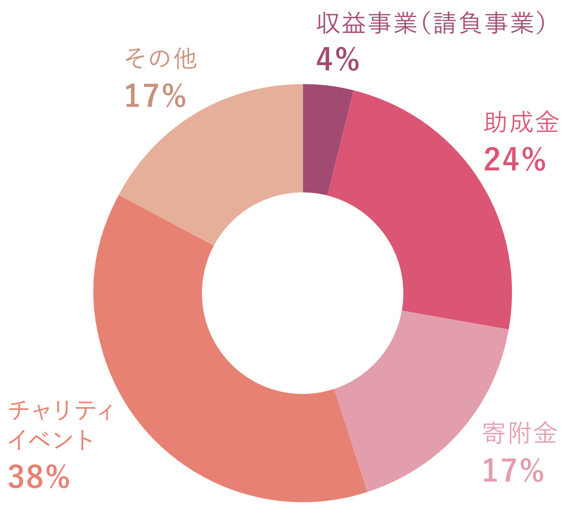
その他のご支援

・大本山總持寺
・株式会社ワンステップ
・東友会 関東支部 ボランティア部会

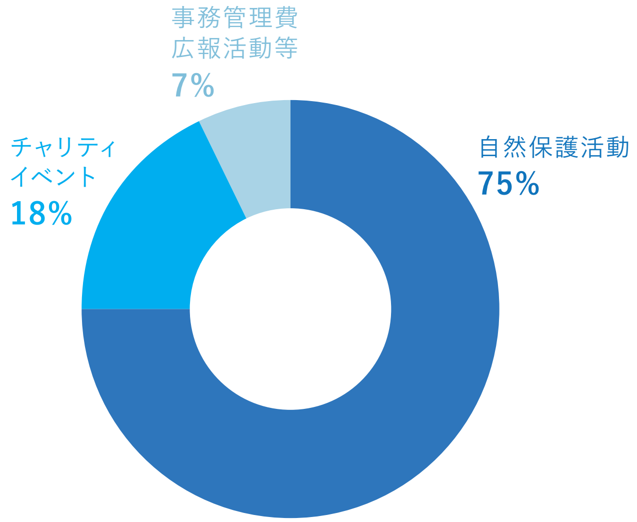
収支報告（1～12月）

※2024年12月末日現在の見込（会計監査前）

Income
収入
478,403,593円



Expenditure
支出
478,403,593円



Together we are BirdLife International
Partnership for nature and people

Albania · Argentina · Armenia · Australia · Austria · Bahamas · Belgium · Belgium · Belize · Bhutan · Bolivia · Botswana

Brazil · Bulgaria · Burkina Faso · Burundi · Cambodia · Canada · Canada · Cape Verde · Chile · China (Hong Kong) · Colombia · Cook Islands

Côte d'Ivoire · Croatia · Cuba · Cyprus · Czech Republic · Denmark · Dominican Republic · Ecuador · Ecuador · Egypt · El Salvador · Estonia

Ethiopia · Falkland Islands (Malvinas) · Faroe Islands · Fiji · Finland · France · French Polynesia · Georgia · Germany · Ghana · Gibraltar · Greece

Guinea · Hungary · Iceland · India · Indonesia · Iraq · Ireland · Israel · Italy · Japan · Jordan

Kazakhstan · Kenya · Kuwait · Latvia · Lebanon · Liberia · Liechtenstein · Lithuania

BirdLife INTERNATIONAL

Luxembourg · Madagascar · Malawi · Malaysia · Malta · Mauritania · Mauritius · Mexico

Mongolia · Montenegro · Morocco · Myanmar · Nepal · Netherlands · New Caledonia · New Zealand · Nigeria · Norway · North Macedonia · Palau

Palestine · Panama · Paraguay · Peru · Philippines · Poland · Portugal · Puerto Rico · Romania · Rwanda · Senegal · Serbia

Seychelles · Sierra Leone · Singapore · Slovakia · Slovenia · South Africa · Spain · Sri Lanka · Sweden · Switzerland · Syria · Tanzania

Thailand · Tunisia · Türkiye · Uganda · Ukraine · United Kingdom · Uruguay · Uzbekistan · USA · USA · Zambia · Zimbabwe

一般社団法人
バードライフ・インターナショナル東京

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-13-1 ユニゾ蛎殻町北島ビル1階
TEL：03-6206-2941　FAX：03-6206-2942

https://tokyo.birdlife.org